

瀬尾南海《木蓮に叭々鳥図》

大正〓昭和初期（二十世紀）  
絹本着色  
本紙一六六・五 × 八四・四

白木蓮の可憐な花に覆われた明るい画面の中で、つがいのハッカチョウの漆黒の羽毛が一際映える。ハッカチョウの最大の特徴である頭部前方の冠羽の他、先端のみが白い尾羽や金色の目の虹彩など、かなり正確に描写されている。作者の瀬尾南海（一八九四〓一九六九）は、はじめ薩摩藩士で絵にも長じていた祖父鶴汀に絵の手ほどきを受けた後、東京で狩野探溟の画塾に入門した。しかしその画風は決して狩野派にとられることはなく、独自に習得した多様な描法を使いこなした。本図が貞明皇后のお手許にあつた作品であることを考えると、横山大観《鸚鵡》と同様に吹上御苑で飼育されていたハッカチョウをモデルにした可能性も考えられる。作品は、その後香淳皇后へと引き継がれた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan